

炭竈ふく代 議員

公明党

子どもたちの緊急時に対応 できる安心カードの作成を

問

国は、東京都調布市で発生した学校給食による食物アレルギー事故の再発防止に向け調査を行い中間まとめ【】を発表した。

 今後の学校給食における食物アレルギー対応に関する充実を図るため、食物アレルギー対応に関する課題について検討を行ってきた。

今般、これまでの議論をもとに論点を整理し、今後の食物アレルギー対応における基本的考え方や具体的な取組などを中心としたもの。

(1) 「中間まとめ」を本市としてはどのように捉え、給食アレルギー事故の再発防止に取り組むのか。

(2) 「中間まとめ」では、緊

急時に備えた学校と消防署との連携・強化を指摘しているが、本市の対応は。

(3) 緊急時に対応できる安心カード【】などを作成し、迅速な救急対応への取り組みを実施してはどうか。

 群馬県渋川市は、児童・生徒の病気やけが、アレルギー症状で救急搬送される際、学校と消防署が迅速に連携できるよう、A4版1枚に保護者の勤務先のほか、緊急の連絡先や子どもの既往歴、服用薬、各種アレルギーの有無、かかりつけ医療機関の連絡先などが記載されている。

健康カードを作成 し対応している

答 教育長

(1) 学校給食は栄養教諭、養護教諭や担任など、学校全体で児童・生徒のアレルギーについて情報を共有し、事前に詳細な献立表を保護者に配付し、確認の上で給食を提供している。食物アレルギーの原因となる食品は、調理過程及び単品での除去をし、除去食には、個人別に名前つきの給食を提供している。

また、栄養教諭部会、養護教諭部会で研修会や情報交換会などをして、事故防止に取り組んでいる。

(2) 現在、消防署との特別な連携は行っていない。

(3) 健康カード(小学校入学から中学校卒業まで使用するもので、児童・生徒の健康状態、食物アレルギー、既往歴、かかりつけ病院名など記載したもの)を児童・生徒ごとに作成し、緊急時に救急隊に必要な情報を伝えている。

個人情報に記載されている

健康カードは消防署と共有するわけにはいかないが、重篤な児童・生徒などは、保護者の確認のもとで消防署と連携することも考えていきたい。

ピロリ菌の検査・ 除去を推進しては

問

我が国では毎年約12万人の方が胃がんと診断され、約5万人の方が亡くなられており、がんによる死因のうち、肺がんにつき第2位に位置している中尋ねる。

(1) 本市の状況はどうか。
(2) 25年に市の事業での胃がん検診受診数は何名か。
(3) バリウム検査、胃カメラでの検査受診者数は。

(4) 胃がん検診受診率向上の一助に、また胃がんの早期発見及び予防のため、胃がん検診にセットでピロリ菌【】の検査、除菌を推進する考えはあるか。

 正式名称は「ヘリコバクタリー・ピロリ」。らせん状にねじれた形をした細菌で酸を中和する酵素を持っていて体のまわりに高いアルカリ性のアンモニアを発生させ、胃酸から身

を守っている。この酵素が胃の粘膜に障害を起こすとされ、胃潰瘍や胃がんの原因と考えられている。

現時点では考えていない が今後、調査研究したい

答 健康推進課長

(1) 胃がんで亡くなられている方は、24年に15名(男性9名、女性6名)。

また、がん疾患が原因の方は、24年に116名(男性75名、女性41名)である。

(2) 25年9月末時点での受診者は1千214名である。

(3) バリウム検査受診者は、1千99名、胃カメラ検査受診者は、115名(海南病院で行う総合がん検診受診者の約2割)である。

(4) がん検診事業のための指針では、必要事項を定め、予防及び早期発見の推進を図り、死亡率を減少させるため、胃がん検診は問診及び胃部エックス線検査となつていくことから、ピロリ菌検査、除菌についての推進の取り組みは今のところ考えていないが、今後事例等を調査研究したい。